

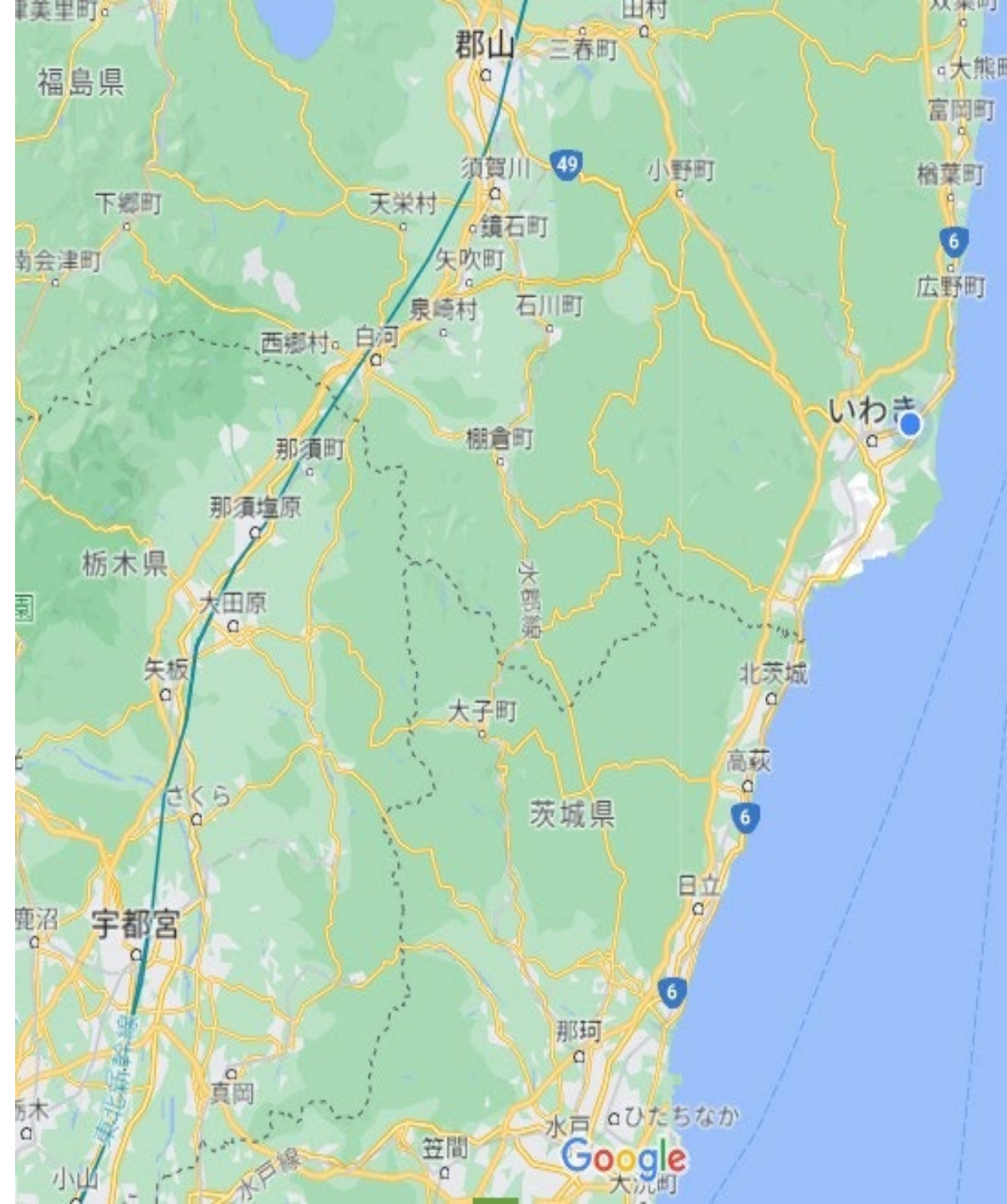
大熊町をふるさとにもつ
私の今の思い

木村純子

大熊町とは

- 大野村 + 熊町村 (1954 (昭和29)合併)
- 718年 (養老2) 石城国 (いわきのくに)
建国 (2018=建国1300年)
- 常陸国風土記 (718年前後)
「久慈の境の助河をもちて道前(みちのくち)
と為し、陸奥 (みちのおく) の国石城の郡の
苦麻の村を道後 (みちのしり) となしき。」

苦麻の村 = 現在の大熊町字熊大字熊町





○被災/避難

- 被災したのは(大学で学生たちと懇談中)
- 2011/3・11 (金)
- 大学の4階で、学生たちと教室員が一緒にお茶を飲んでいた。
- 午後2時46分、大きな長い揺れの後、皆で階段を降り、中庭に避難。
- 余震で建物に入れなかったが、午後4時ごろ解散。
- 私の部屋は、棚から本が全部落下、床に散らばる。
- 薬品庫に被害なかったのが幸い。(薬理学の研究室)
- 薬品は鍵がかかった戸棚。エタノール、塩酸など液体は、びん1本ごとにマス目状の木枠の中。
- 前任者が、80年代の宮城沖地震後に設計、備え付けた。先達に感謝。

- 避難指示(自宅退去)をどのようにうけたか

(大熊町民の避難指示はテレビで知った。)

- 3月11日夕方、大学から2キロの自宅に歩いて帰る。
- 途中、電柱が1本倒れていた。
- 自宅は、茶碗が1個、床に落ちただけ。何も被害なかった。
- 断水したが、電気、ガスは大丈夫。
- 夜、テレビで、津波の様子をこたつにあたりながら見た。
- 原発周辺住民の避難を知ったのは次の日。
- 枝野官房長官の「放射能は人体に影響ない程度」の言葉に安心していた。

○母の避難

- 母（当時82才）は大熊町に一人で住んでいた。
- 地震当時は、双葉町の病院に入院中。膝の手術後のリハビリのため。
- 11日は、母がどうなったか不明。
- 連絡のし様がなかった。
- 病院だから、何とかしてくれるだろうと楽観視。

○母の避難

- 13日（日）、母を探しに行く。
- 川俣町、二松市、田村市の避難所に母はいない。
- 田村市体育館に、大熊町民が大勢、近所の人もいた。
- 我が家は「建っていたよ」と。安心した。
- 自宅で母から連絡がくるのを待つことに。



○母の避難行

- 3月12日朝、母は、双葉町の双葉厚生病院から自衛隊の車、バスで移動。
 - 隣の浪江町の老人ホーム（オンフル双葉）へ。
 - 12日ー14日夜まで滞在。
 - 14日夜、再びバスで移動。
- 南相馬市保健所、那須甲子高原を経て、15日朝、いわき市光洋高校に到着。
- 福島市の私に電話。



○母の避難

- 15日、午前10時ごろ、母から電話。
- いわき市の光洋高校にいると。
- すぐ千葉県の叔父に電話、いわき市小名浜の叔父に連絡を頼む。
- 県内の電話は通じにくい。
- 叔父が、母を迎えに行き、病院のパジャマ姿の母をタクシーで郡山市の磐梯熱海温泉へ。
- いわき市のもう一組の叔母夫婦が、磐梯熱海温泉に避難してた。
- 母は3月26日福島市の断水解除まで滞在。

○福島市の私の借家に避難者

- 3月15日、母の妹夫婦が避難してきた。
- 叔母は富岡町出身、叔父は浪江町出身。
- 埼玉県に住んでいたが、定年後、富岡町夜ノ森に、二件目の家を建て、埼玉から時々来て、野菜作りを楽しんでいた。
- 叔父は、津波で浪江町の実家を流され、兄も失う。
- 浪江町の人たちと避難所にいたが、寒さに耐えられなかった。
- 3月24日、東北自動車道が一般開放され、埼玉に帰る。



最初の避難地

- 母が、2011年3月26日から福島市の私の借家に同居。
- 2016年4月、私が定年退職。4月に母と私はいわき市に移住。
- いわき市の家は、叔母夫婦が老人施設に入所、1年前から空き家。
- 叔母夫婦が私たちに入居を勧めてくれた。

○避難先での暮らし

- 最初に困ったのは：知り合いがどこに避難したか不明。
- 個人情報保護法のため（?）、町役場が直接教えてくれない。
- ご近所とは、買い物は、病院は：
母にとって福島市の暮らしは、便利だったと思う（私の勝手な思い!?)。

前隣の奥さんも、後隣の旦那さんも、母に優しくしてくれた。

訪問販売車「とくしまる」週2回自宅前に来て、母が買い物を楽んだ。

同じ団地に、母の友達2人が大熊町から避難、訪ねたり電話で話したり。

母は震災後に血圧が上がり、近くの開業医から降圧薬。

福島医大・整形外科で膝を人工関節に。

血圧測定中の母（2016年？86才？）（いわき）



•大熊町、いわき市、国(内閣府、環境省) が何をしてくれたか

- 2011年7月から大熊町の自宅に一時立ち入り開始。
防護服、ペットボトル水提供。
- 経済的な援助：税金、医療費、高速道路の料金などが免除。
母に生活支援金の支給。
- 大熊町から、米など食料品。

- 帰還にむけて：次頁の「いま」に回答。
- 留守宅の保全のために(いわき市↔大熊町)
- 行政に対する避難指示解除要求

○いま

- 孤立状態の留守宅
原発行動隊の皆様が、今までずっと、ボランティアとして庭の草刈りを続けてくださり、大変ありがたく感謝しています。
- 私は、週1回ほど、家と庭の手入れ。
- 東京電力も年1回、庭の草刈りをしてくれる。
- 庭師を頼んで、樹木の手入れや雨どいの掃除。
- 大工さんに床の張り替え、壁や柱の補強など、その都度お願いしている。

- 避難指示解除(帰還)に向けての最終状況(来年には?)

2023年6月2日、改正福島復興特措法が成立。
帰宅困難区に新たに居住区域を設定し、国費で除染。
来年度には、我が家も解除されると期待。

•行政に対する要望

- 私の家を、除染ぬきで解除してほしい。
- 除染は、庭木を伐採し、表土をはぐため庭が台無しになる。
- 低線量放射線は人体に影響がない。
- 今は、緑を失う方が、温暖化を促進することになり、害が大きい。
- 樹木で木陰を作り、気温を下げ、植物の光合成で二酸化炭素を吸収し、酸素を提供してもらうことが、今、環境のために最も大事。
- 樹木の保存、造林、緑化政策を強化してほしい。



最後に、もう1つ要望

- 大熊町に中間貯蔵している土について。
30年後にどこか別のところに運ぶ計画は撤回し、今の場所に置いて、森林にしてほしい。
- 運び込んだ大量の除染土は、そのままにしておけば、30年後は見事な森林になる。自然の回復力にまかせれば、お金もかからない。温暖化を抑止し、環境に良い。

よろしく願いします。

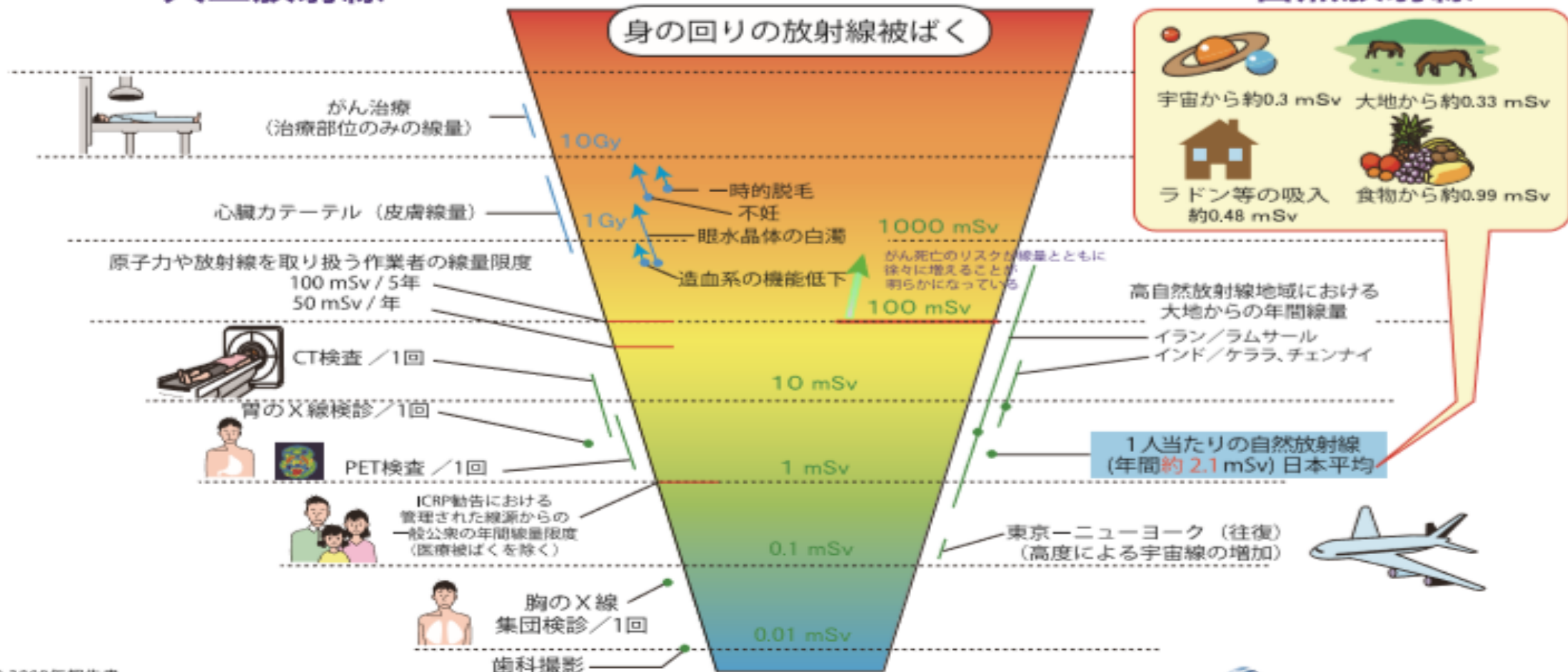


終わり。

放射線被ばくの早見図

人工放射線

自然放射線



- ・ UNSCEAR 2008年報告書
 - ・ ICRP 2007年勧告
 - ・ 日本放射線技師会医療被ばくガイドライン
 - ・ 新版 生活環境放射線 (国民線量の算定)
- などにより、放医研が作成 (2013年5月)

【ご注意】

- 1) 数値は有効数字などを考慮した概数です。
- 2) 目盛 (点線) は対数表示になっています。
目盛がひとつ上がる度に10倍となります。
- 3) この図は、引用している情報が更新された場合
変更される場合があります。

【線量の単位】

各臓器・組織における吸収線量: Gy (グレイ)

放射線から臓器・組織の各部位において単位重量あたりに
どれくらいのエネルギーを受けたのかを表す物理的定量。

実効線量: mSv (ミリシーベルト)

臓器・組織の各部位で受けた線量を、がんや遺伝性影響の感受性について
重み付けをして全身で足し合わせた量で、放射線防護に用いる線量。

各部位に均等に、ガンマ線 1 Gy の吸収線量を全身に受けた場合、
実効線量で1000 mSvに相当する。



国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構

放射線医学総合研究所

<http://www.qst.go.jp>



Ver 180516